

## 第1学年4組 道徳指導案

1 主題名 家族を想う〔内容項目B－(6)：思いやり〕 (1時間完了)  
〔資料名 祖母からの「ごめんね」 出典：中学校道徳 自作資料集&指導案NO. 1 (明治図書)〕

### 2 ねらい

祖母に対する私の言動の変化を追うことを通して、優しさと思いやりの心をもって人と接しようとする道徳的実践意欲を育てる。

### 3 ねらいとする道徳的価値

言葉には、その言葉を使う人の人格が表れると言っても過言ではない。しかし、そのことを常に意識しながら言葉を使っている人は少ない。特に中学生ぐらいの年齢は、思春期も重なり、自分の人格を形成している途中である。中学生の言葉に耳を傾けてみると、相手の心を傷つける言葉を罪悪感もなく使っていることが多い。

私たちは、言葉を通して周りの人とコミュニケーションをとることが多い。そのためにも、心に届く言葉を大切にさせたい。相手意識をもち、自分の優しさと思いやりの心を言動に示していくことの大切さについて考えてさせたい。

### 4 ねらいとする道徳的価値に関する生徒の実態と願い

#### (1) 学級について

本学級は、決められた時刻から朝の読書をはじめ、チャイム着席が全員できるなど時間を守ろうという意識は高い。しかし、自主的に行動していこうという意識はまだ低い。リーダーは学級をよくしようという思いはあるが、全体への発信力が弱く学級をまとめきれていない。

また、相手の人格を否定し、心を傷つける言葉を何気ない会話の中でよく耳にする。だれもが、相手の言動によって嫌な思いをした経験をもっている。そういった言葉を発した本人が何も気にしないまま成長すれば、人とのコミュニケーションがとれない大人になってしまう危険性を感じる。周りの人と豊かにかかわるためには、どのような言動が望ましいのか、立ち止まって考えさせ、思いやりの心をもって人と接することができるようになってほしい。

#### (2) 抽出生徒について

##### ①抽出生徒Aについて

Aは、その言葉遣いの悪さから、級友を怒らせて喧嘩になったり、異性から敬遠されたりする傾向がみられた。級友とのかかわりの中で、相手の人格を否定し、心を傷つける言葉を日常的に使用している。その結果、人間関係がうまくいかず、登校をしづる時期があった。一時は、市のふれあい学級に週2回通級していたが、現在は毎日学級で過ごしている。

しかし、困っている人を助けようとする優しい一面もある。級友たちとかかわることにはとても意欲的であり、同性とは誰とでも積極的にかかわろうとする。Aには、言葉は時に人の心を深く傷つけることに気づかせ、温かい言葉を選んで使おうとする実践意欲を高めたい。

##### ②抽出生徒Bについて

Bは、本校に登校する地区の中では、比較的少人数が通う地区の生徒である。各学級の中で3人程度、小学校が一緒の生徒が在籍している状況である。小学校時代は、友人関係のトラブルが多かったようだが、中学校入学後は、部活動や学級の生徒をはじめ、とても仲良く過ごすことができていた。それは、これまでの経験から学んだことでもあり、Bが周りをととてもよく見ながら生活をしているということでもあると考える。Bの使う言葉はとてもやわらかく、そしてB本人の意思や考えが的確に伝わる言葉や表現が多い。本時のねらいとBがこれまで経験して学んできたことに共通点は多いように感じる。抽出生徒として、Bに焦点を当てながら授業を構成していく中で、Bの考えや思いにふれ、他の生徒が相手の気持ちを思いやった言動の大切さについて気づけるようにしていきたい。

### 5 資料について

#### (1) 資料の概要

日常生活の中でうまくいかず、思春期を迎えた私と一人暮らしをしている六十九歳になる祖母が主な登場人物である。ある日、祖母からの年賀状に小さく「ごめんね」と書いてあるのを見た私。

しかし、その「ごめんね」の文字には心当たりがあった。父は自営業、母は出産のために入院し、1か月ほど祖母と暮らすことになった期間があった。寂しさから祖母につらくあたり、優しい祖母に対する自身の罪悪感から、さらに素直になれない私がいた。祖母の悲しげな表情を見て、はっと気づき、優しく接するようになったものの、祖母の心を傷つけてしまったという思いにとらわれていた。祖母の家から帰り、祖母からの年賀状に何て書いてあるか気になって仕方がなかった。そして、そこには小さな「ごめんね」の文字。私は、その祖母からの「ごめんね」の言葉がとても気になる。でも、「ごめんね」の本当の意味をうまく理解することができない。

中学2年生になってからの夏休み、私は祖母の家へ1週間ほど泊まりに行った。もう「ごめんね」なんて言われないうちに、祖母との接し方を変えて日々を過ごした。来年の年賀状には祖母からの「ありがとう」を大きな文字で書いてもらえることを願って。

## (2) 「耳をすまして、学びを拓く」ための資料の生かし方

### ①資料との対話をさせるための手だて

祖母からの「ごめんね」の裏に隠された真意を考えるためには、資料の深い理解が必要である。私や祖母の心情が揺れ動くところを中心に、資料を範読するときに、傍線を引きながら読むよう指示することで、発問や人の意見を聞きながら資料を読み返すときに、資料との対話をスムーズに行わせる。

### ②自己内対話をさせるための手だて

授業の前に事前アンケートを実施することで、自分自身の経験と本時のねらいについて考えさせる。自分も含めて多くの人が同じような経験をしてきたという思いのもと、本時の資料にふれることで、自己内対話を繰り返しながら授業に参加することができるようにする。

また、生徒の発言内容を事前に予測し、本時のねらいに向かって発言のコーディネートを行う。具体的には本時の③、④でのコーディネートによって、生徒の学びを拓いていく。

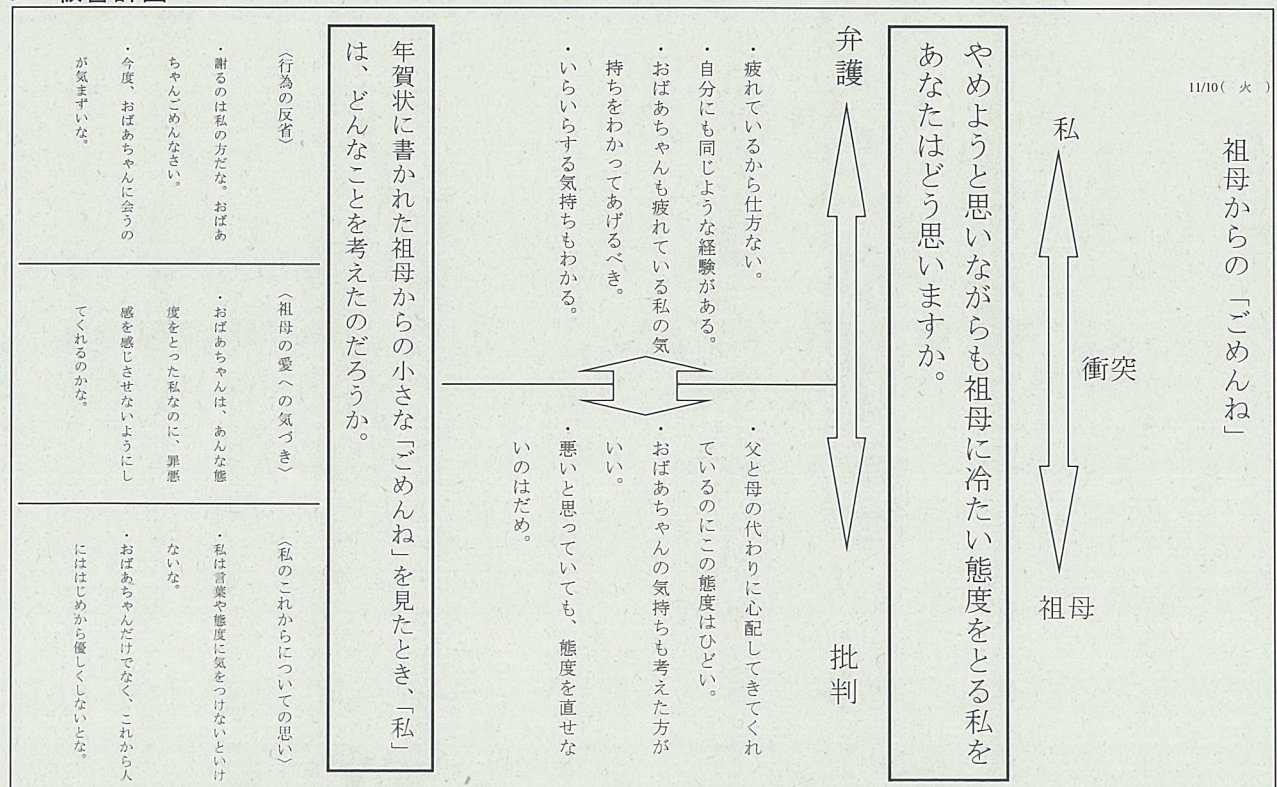
### ③他者との対話を活性化させるための手だて

学年の教員に対する、生徒への事前アンケートと同様のアンケートの結果を知らせる。身近な人生の先輩であり、敬意をはらって接している先生でも、いろいろな経験をしているのだということから、他者の意見にも耳を傾けようとする姿勢をもてるようにする。そのことが、生徒の他者との対話を活性化につながると考えた。

本時の①、②において、自分の立場をはっきりとさせて、自分の意見を違う立場の人とぶつけてみようという意欲をもてるようにする。

祖母からのメッセージの真意について出てきたいろいろな意見を三つの立場に分類して考えることで、自分とは異なる他者の意見に耳をすまし、考えを深めさせる。

## 6 板書計画



7 本時の展開

時間	学 習 活 動	※教師支援 ☆評価
5	<p>○事前アンケートの結果を聞く。 (アンケート内容)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>①「自分の言葉遣いで相手に不快な思いをさせた経験」はありますか？それはどんな経験ですか？</p> <p>②「周りの人の言葉遣いで自分が不快な思いを受けた経験」はありますか？それはどんな経験ですか？</p> <p>③「自分が悪いのに、周りの人から逆に謝られた経験」はありますか？それはどんな経験ですか？</p> </div>	<p>※自分の過ちや不快な経験等を言いやすい雰囲気にするため、担任や学年の先生などにもアンケートをとり、ビデオで紹介する。</p> <p>※自身の体験を素直に言い合える環境づくりのため、原則として指名なしの発言とする。</p> <p>※抽出生徒A、Bについては自分と向き合いやすくするため、意図的に指名する。</p>
10	<p>○資料の前半の範読を聞く。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>やめようと思いながらも祖母に冷たい態度をとる私をあなたはと思うか。</p> </div> <p>○相互指名で話し合う。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>〈弁護〉</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px;"> <p>疲れているから仕方ない。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>自分にも同じような経験がある。おばあちゃんも疲れている私の気持ちをわかってあげてほしい。(①)</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px; margin-top: 10px;"> <p>いらいらする気持ちもわかる。</p> </div> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; width: 45%;"> <p>〈批判〉</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px;"> <p>父と母の代わりに心配してくれているのにこの態度はひどい。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>おばあちゃんの気持ちも考えたほうがいい。(②)</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px; margin-top: 10px;"> <p>悪いと思っけていても、態度を直せないのはだめ。</p> </div> </div> </div>	<p>※資料の深い理解のため、祖母と私の気持ちが表れているところに傍線を引ながら読むように指示する。</p> <p>※考えが思いつかない生徒には、生徒自身の実体験や生徒と家族での出来事、家族間同士の出来事などを想起して考えるよう助言する。</p> <p>※話し合いを活性化させるため、弁護側、批判側の中でも、立場が揺れ動いている意見や主張を認め、取り上げて生かしていく。(①② <b>B:認める、生かす</b>)</p> <p>※抽出生徒A、Bが資料や自己との対話を行いやすくするため、①や②のような意見に対して、「あなたはどう思いますか。」と補助発問する。(①②E:切り返す)</p> <p>※相互指名や本音での話し合いを行いやすいようにするため、自分が弁護側か批判側かが一目でわかるよう、色のカードを机上に提示させる。</p> <p>☆自分なりの思いをもって弁護と批判の立場に立ち、発言をしているか。(発言)</p>
25	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>年賀状に書かれた祖母からの小さな「ごめんね」を見たとき、「私」は、どんなことを考えたのだろう。</p> </div> <p>○相互指名で話し合う。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>〈行為の反省〉</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px;"> <p>謝るのは私の方だな。おばあちゃんごめんなさい。</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px;"> <p>今度おばあちゃんに会うのが気まずいな。</p> </div> <div style="border: 1px dashed black; padding: 2px;"> <p>おばあちゃん、そんなふうにしてたんだ。悲しいな。</p> </div> </div> </div>	<p>※祖母のメッセージに隠された真意を理解するため、「後悔や謝罪という意味だけのごめんねなのだろうか。」と問いかけることで、祖母が「ごめんね」の言葉に込めた私への教えに近づける手助けをする。</p>

〈祖母の愛への気づき〉

おばあちゃんには  
優しくしないと  
な。

おばあちゃんはある態度をとった  
私なのに、罪悪感を感じさせないよ  
うにしてくれてるのかな。(③)

今度会うのが気ま  
ずいな。

祖母は私を心配してくれていたんだ  
ろうな。

〈私のこれからについての思い〉

おばあちゃんは、あんなにひどい態度をとっていた私のこ  
とを心配してくれているんだな。

(1) 私は言葉や態度に気をつけないといけないな。(自  
分の言動や行動に責任をもつ。)

(2) おばあちゃんだけでなく、これから人にははじめか  
ら優しくしないと。 (人には優しくすべき。) (④)

※祖母からのメッセージに込められた思いをとらえるため、祖母からの「ごめんね」が後悔や謝罪だけでなく、私への配慮にだと感じている生徒の意見をとりあげ、認めていく。(③B:認める、評価する)

※本時のねらいにせまれるようにするため、「祖母に対する反省の思いをもち、祖母の愛に気づいた私は、このあとどうするだろうか。」と補助発問することで、〈私のこれからについての思い〉に気づかせる。(④C:気づかせる)

4 0 ○資料の後半の範読を聞く。  
BGM (福山雅治/道標)

4 5 ○振り返りをする。

祖母からの「ごめんね」が後悔や謝罪の言葉ではなく、「私」への祖母からの愛ではないかということを知る過程の中で、自分の優しさと相手への思いやりの心を言動に示していくことの大切さについて前向きに考える姿。

※資料の後半部分の余韻を残すため、生徒が書いた振り返りは、後日、学級通信で紹介する。

☆祖母からの「ごめんね」のメッセージは後悔や謝罪の言葉だけではなく、祖母の愛に気づき、〈私のこれからについての思い〉について考えようとしていたか。(発言、ワークシート、表情)

## 授業の視点

- ① 中心発問は、祖母に対する後悔だけでなく、祖母の愛に気づき、これから思いやりをもった行動をとろうとする「私」の心情を考え、本時のねらいとする道徳的価値に迫るために適切なものであったか。
- ② ①②③B、④E、⑤Cにおける教師支援は、生徒の思いや考えを広げたり、ゆさぶったりして、生徒の学びを拓くうえで有効であったか。